

小・中学校における 租税教育指導事例集

平成 31 年 3 月

登米市租税教育推進協議会

発刊に寄せて

今年度も登米市租税教育推進協議会並びに租税教育推進協力者の皆様のご尽力により、ここに「平成30年度租税教育指導事例集」が刊行されますことをたいへん喜ばしく思います。

市内小・中学校において、租税の仕組みや制度について学習し、興味をもち、見聞を深め、理解していくことは、誠に有意義であり、大事な取組と考えています。小・中学校の授業の中で、租税教育指導の進め方について、研究及び実践を行い、具体的に様々な取組事例を紹介する本書は、極めて有効な租税教育の実践のための参考書であると認識しており、その効果が大きいと期待されるものです。

租税制度は、国の運営の根幹を支える制度であり、私たちが納めた税金は、「国民の健康で豊かな生活」を実現するために、国や地方公共団体が行う活動の財源となります。この税金の使い道として、私たちの安全を守る警察・消防や、道路・水道の整備といった公的サービスや、教育・福祉・医療・年金など社会での助け合いのための活動に使われているところです。

本年度は、小学校5校、中学校2校の実践事例が紹介されています。いずれの学校でも児童生徒を対象にわかりやすく「税」を理解させるため、各種の工夫を凝らして取り組んでおり、今後の租税教育活動に大変参考になる内容となっています。各小・中学校におかれましては、ここに紹介されています租税教育実践事例を、今後ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

結びに、各小・中学校の授業で、租税教育の推進にご指導いただいた先生方のご努力とご支援、並びに本事例集の取りまとめに当たられました佐沼税務署の皆様のご尽力に心から感謝を申し上げ、発刊に際してのあいさつとさせていただきます。

平成31年3月

登米市租税教育推進協議会会長
登米市教育委員会教育長

高橋富男

目 次

小学校指導事例

① 第6学年	佐沼小学校 教諭 鈴木一郎	1
② 第6学年	登米小学校 教諭 後藤 歩	3
③ 第6学年	錦織小学校 教諭 岩渕安弘	7
④ 第6学年	宝江小学校 教諭 遠藤寛樹	11
⑤ 第6学年	米山東小学校 教諭 千葉美由紀	15

中学校指導事例

① 第3学年	登米中学校 教諭 中津川英樹	19
② 第3学年	米山中学校 教諭 清水裕治	23

平成30年度	租税教育推進協力者	26
--------	-----------	----

平成30年度	登米市租税教育推進協議会 構成員名簿	27
--------	--------------------	----

歴代租税教育推進協力者		28
-------------	--	----

はじめに

税金に関して学ぶ単元としては、「わたしたちの生活と政治」の小単元「震災復興の願いを実現する政治」がある。教科書の一般的な指導計画に沿って、震災復興では、国・都道府県・市町村の税金が使われることを学習した。また小単元「わたしたちの暮らしと日本国憲法」では、「国民の義務」について指導した。そして、「国民の義務」の学習の後に「租税教室」を実施した。

「租税教室」の前には、詳しい税金の学習はせず、事前の知識はあまりない状態だった。歴史単元では、奈良時代の租・調・庸、江戸時代の年貢、幕末～明治における「関税自主権」や「地租改正」等について学んでいるものの、税金について特に詳しく学習したわけではない。「租税教室」において、税の意義や大切さを学習したのが初めてといえる。租税教室の後、授業で「税の種類と特徴」というテーマで担任が 1 時間授業を行った。

I 租税教室

1 月 21 日(月)の 3 校時、3 クラス合同で実施した。

登米法人会から 3 名の講師が来校し、6 年児童 111 名に講義をしてくれた。

- ①知っている税金にはどのようなものがあるか発表する。
- ②さまざまな施設について税金が使われているものと使われていないものを区別する。
- ③学校で税金が使われているものを考える。
- ④税金を払う必要があるかどうか発表する。
- ⑤鑑賞教材「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を鑑賞する。
- ⑥ 1 億円のレプリカを持ち、重さや量を実感する。
- ⑦感想を発表する。
- ⑧お礼の挨拶

また租税教室に前後して、社会科の時間以外にも、税に関する標語コンクールや税に関する絵はがきコンテストに応募し、税に関する興味関心を高めることができた。

児童の感想

- ・租税教室の前は、消費税しか知らなかったけれど、終わった後は自動車税などたくさんあることが分かりました。
- ・私は、「税金はあんなに必要なんだ」と思いました。前までは消費税なんていらなと思っていました。けれど、租税教室の話を聞いたら考えが変わりました。
- ・たばこ税や酒税があるのを知らなかったのでびっくりしました。
- ・税金がなければ、生活するのがすごく大変になるので、税金がすごく大切なものと分かりました。
- ・税金がないと、通行するのにもお金が必要なので、税金は絶対に必要だということが分かりました。
- ・アニメを見て、税金のない社会はとても大変だということが分かった。税金はとても大切だと思ったし、いろいろな所で税金が使われていることも分かった。
- ・1 億円はけっこう重かった。



II 税に関する授業 ー税金の種類と特徴について調べよう。

(1) 目標 所得税と消費税の特徴を知り、高齢化社会の税金のありかたについて考えさせる。

(2) 使った資料 (登米市租税教育推進協議会からいただいた資料を用いて授業を行った。)

- ・平成 30 年度版 小学校社会科用学習資料「わたしたちの暮らしと税金」
- ・「日本の財政関係資料」 P19 「高齢化率の国際比較」 P20 「なぜ消費税なのか。」

(3) 授業の概要

1 租税クイズに挑戦しよう (「わたしたちの税金と暮らし」の表紙・P5 から

Q5 税金をどのように使うかを決めるのは、内閣総理大臣である。(国会が正答でほとんど正解)

○公立学校の児童・生徒一人当たり 9 年間の教育費に使われる税金はどのくらいだろう。

8 万円 80 万円 800 万円

(多くは 80 万と回答 正解の 800 万円は 3 分の 1 資料 5 ページを見て驚く児童が多かった)

Q3 国の税金は道路や住宅などの整備のために一番多く使われている。

(租税教室の印象が強かったのかほとんど不正解 一番は社会保障費の 34%と知って驚く)

2 国の税金の使いみちを確認する。(「わたしたちの税金と暮らし」P7)

社会保障 > 県・市町村への補助金 > 道路・住宅などの公共事業 > 教育 > 防衛

3 税の種類を想起する。租税教室で聞いた税金でどのようなものを覚えているかな。

消費税 所得税 法人税 たばこ税 酒税 ガソリン税 固定資産税 住民税 地方税

(各人が想起した税は少なかったが、みんなを合わせると結構多くの種類が挙がった)

4 所得税・法人税について理解する。(わたしたちの税金と暮らし P1)

- ・所得税 個人の収入にかかる税。収入の多い人ほど多く納める。
- ・法人税 会社の収益にかかる税。収益の多い会社ほど多く納める。
- ・消費税 買い物をしたときにかかる税。8%

5 社会が高齢化して働く人が減っていく状況の中で、税金が不足しないように増やすとしたらどの税金を増やせばいいか考える。

①日本の高齢化は世界と比べてどうなっているだろう

(「日本の財政関係資料 P19 の国際比較グラフを見せた。2000 年頃世界のトップになったことを確認させる。65 歳以上の割合は現在約 30%であることを確認させる。)

②国が一番税金を使っている社会保障費とは何だろう。

(「わたしたちの税金と暮らし」P7, P8 で 医療・健康・福祉・年金などを理解させる。)

③所得税・法人税 と 消費税 のどちらを増やせばいいだろう。

最初の質問では 所得税・法人税に挙手した児童が圧倒的多数。理由を聞いてみると

- ・収入の多い人が多く納めるのが当然だから。
- ・大企業はもうかっているから多く納めた方がいい。といった意見がほとんど。
- 消費税に手を挙げた数名に理由をきくと。
- ・子どもや老人など多くの人が払える(納める)から。多くの人から集められるから。
- ・所得税などは、払わなくてもいい人もいるから。働く人だけだと不平等だから。
- ・子どもや老人も払った方がいいから。

消費税に手をあげた児童の意見発表後、改めて どちらかを聞いたところ、消費税に手を挙げる児童が増えた。学校集金やスポ少の会費等にふれ、家庭の経済力によって差をつけていないことを想起させ、税金には会費制的なところもあることを紹介したが、さまざまな意見があるので、自分なりに考えていく必要があることを指導してまとめた。

平成30年度 租税教育実践事例（第6学年社会科）

登米市立登米小学校
教諭 後藤 歩

- 1 単元名 わたしたちの生活と政治
小単元名 震災復興の願いを実現する政治

2 単元のねらい

本単元は、地方公共団体や国の政治の働きに関心をもち、国民生活には地方公共団体や国の政治が反映していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解するとともに、我が国の政治の働きと国民生活とのかかわりを考えようとする。

地方公共団体や国の政治の働きに関する社会的事象から学習問題をつかみ、聞き取り調査をしたり、各種資料を活用したりして調べたことをまとめるとともに、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考え、適切に表現する。

(2) 児童の実態（男9名、女13名、計22名）

本単元の学習を指導するに当たり実態調査を行ったところ、全員が「税金」という言葉を知っていた。その中でも、「消費税」について、10%に増税されることにも関心をもっていた。また、教科書の巻末に「税金によって無償で提供されている」という文章があることに気付いている児童も複数いた。

また、「税金の種類」については「消費税」を除くと「自動車税」や「市民税」などの言葉を知っている児童は若干名いるが、その使い道や他の種類の税に関してはほとんど分からないようである。同時に「税金は大人が払うもの」だと感じている児童も多い。そのことから、自分自身も納税者であることについても理解を深めさせたい。

(3) 指導の着眼

児童の実態調査の結果を受け、以下の点を指導の手だてとして設定した。

- ① 税務署からゲストティチャーを招き、専門的な立場から説明してもらうことによって、児童の興味・関心を高めながら学習を進められるようにする。
- ② 国民の義務として、納税の義務があるということを学び、税の必要性を押さえる。
以上のような手だてを用いることによって、児童一人一人に「税金」について理解させ、「税金」の必要性についても考えさせていきたい。

3 活動計画

段階	題材名	時	おもな学習活動	評価規準	備考
つかむ	東日本大震災の発生	1	「大震災直後の気仙沼の様子」や号外を見て、気付いたことや考えたことを発表し合う。	〈関意態〉 被害の大きさやまちの人々の願いについて関心をもち、願いを実現する政治の働きを意欲的に調べようとしている。	震災直後の写真や新聞記事を見せ、東日本大震災による被害の大きさについて考えさせる。
調べる	東日本大震災への緊急対応	1	地震直後の市、県、国の取組について調べる。	〈思判表〉 災害が発生した時に国民生活を守るように、地方公共団体や国は日頃から協力して、準備していることを考え、適切に表現している。	
	災害復旧に向けた国の支援	1	災害復旧、復興に向けた国の取組を調べる。	〈技能〉 国の災害復旧に向けた取組について調べたことを年表などにまとめている。	
	【本時】 私たちのくらしと税金	1	税金がわたしたちの生活に密接に関係していることを知り、働きや必要性についての話を聞く。	〈知理〉 法人会の方の話を聞き、税金の働きや必要性や重要性について理解している。	法人会の方をゲストティーチャーに招き、税金の使われ方を理解させる。
	復興を願う市や市民の取組	1	市や市民の取組について調べる。	〈知理〉 災害復興への取組は、地方公共団体や国の政治の働きによるものであることを理解している。	地域住民の話から、震災から立ち上がり、復興に向かう人々の姿をとらえさせる。
	さまざまな支援と絆	1	復旧や復興に向けた、様々な人の取組について調べる。	〈技能〉 災害復旧・復興に向けた様々な支援について、必要な情報を集めて読み取っている。	防災教育副読本を活用し、復旧・復興に向けて様々な取組をつかませる。
まとめる	まとめる	1	調べてきたことを項目ごとに整理して、新聞記事を書く。	〈思・判・表〉 これまで調べたことを関連付けたり、総合したりして、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考え、表現している。	

4 本時の学習

(1) 指導について

- 税金がわたしたちの生活に密接に関係していることを知り、働きや必要性についての話を聞く。

段階	主な学習活動・子どもの反応	学習の様子
つかむ5分	<p>1 本時の課題を知る。</p> <p>税金の働きや必要性について考えよう。</p> <p>税金の働きや必要性について知り、自分たちの生活との関係について学ぶことを知らせる。</p> <p>2 ゲストティーチャーの紹介をする。</p>	
学び合う20分	<p>3 講師の方の話を聞き、税金について考える。</p> <p>○知っている税金の種類を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費税、自動車税・・・など <p>○1億円のレプリカを持ち、量や重さを実感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> すごく重たい。 10kgもあるなんてびっくり。 <p>○税収が58兆円であることを知る。</p> <p>○税金が使われているものとそうでない施設に分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> お店にも税金が使われているんじゃないかな。 小学校には税金が使われているよ。 <p>○学校で税金が使われなかったならば1ヶ月に約7万円の費用がかかることを知る。</p>	<p>【1億円の重さを実感した】</p>  <p>【税金の使われ方を分類】</p> 
確かめる20分	<p>4 DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴し、税金の必要性を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して生活できない。 火事や交番の利用も有料になってしまう。 <p>5 国民の三大義務について知る。</p> <p>○納税はみんなが力を合わせて支払う会費のようなものである。</p> <p>○みんなが安心して豊かな暮らしができるようにするために税金がある。</p>	<p>【DVDを視聴し、税金の必要性を考えた】</p> 

(3) 評価

- 「税金」の使われ方について知ることができたか。
- 「税金」が必要なわけを考えることができたか。

6 指導を振り返って

- 登米法人会の方をゲストティーチャーとして、「税金」について説明してもらったことにより、「税金」について興味を持たせることができた。
- 理解啓発ビデオ「マリンとヤマトの不思議な日曜日」は身近な出来事を題材として取り上げているため、とても分かりやすく、児童は「税金」の必要性を実感することができた。
- もしも税金がなかったならば、学校生活だけではなく、日常生活にも大きな影響が及ぶことを知り、税金の必要性や重要性について理解を深めることができた。

【税に関する絵はがきコンクール応募作品】（一部）



平成30年度租税教育実践事例（第6学年社会科）

登米市立錦織小学校

教諭 岩渕 安弘

1 単元名 「わたしたちの生活と政治」 ～小単元名「震災復興の願いを実現する政治」～

2 指導にあたって

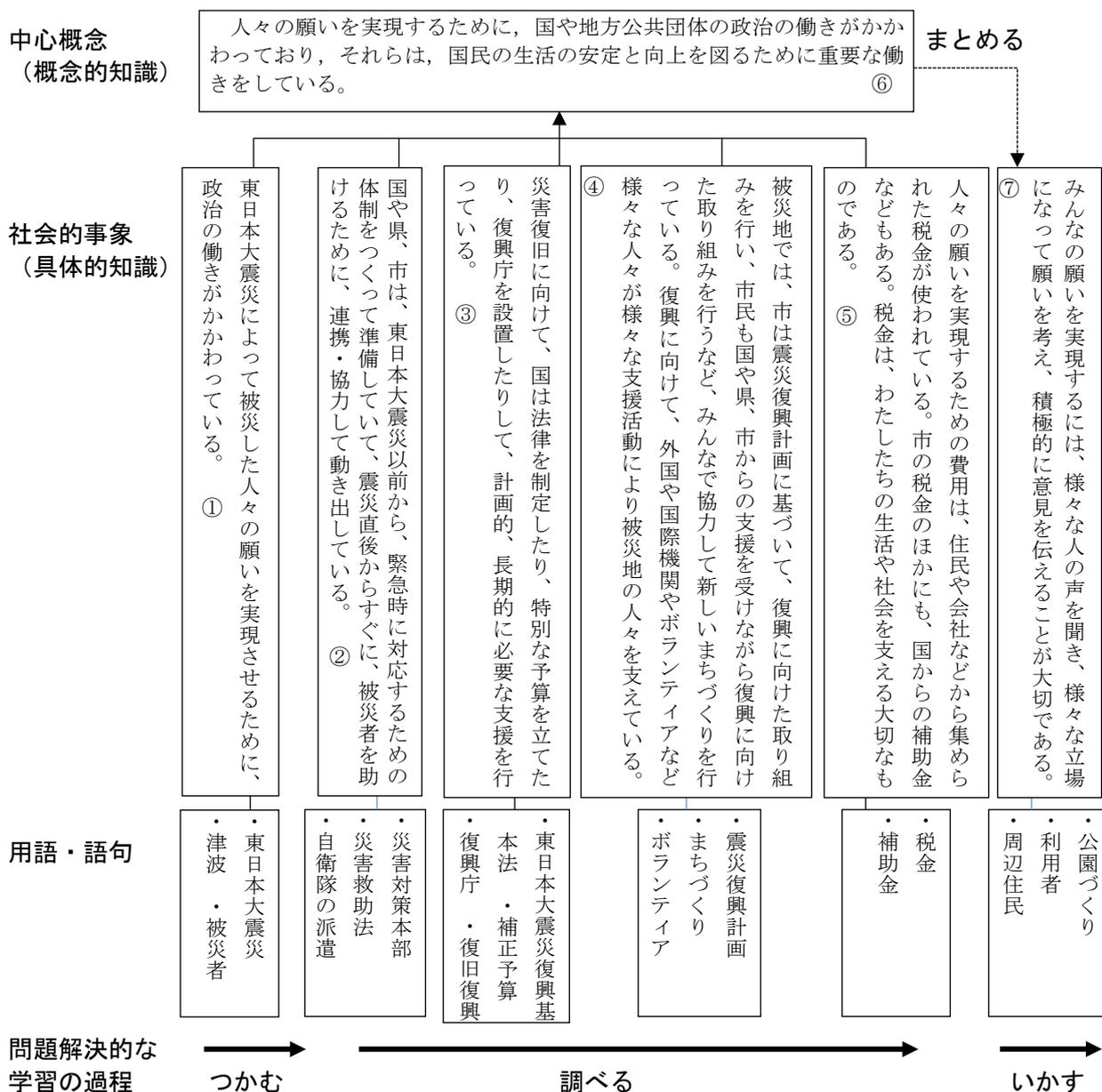
(1) 児童の実態（男7名，女7名，計14名）

児童は、歴史の学習において「租・庸・調」や年貢，地租改正などの税の存在について学んできた。現在でも，消費税など身近な税金があることは知っているが，それ以外の税金の種類を知らない児童が多い。税金が教科書等，みんなが使うところに使われていることは知っている。

(2) 指導の着眼

- ① 既習事項の「租・庸・調」や年貢，地租改正などの内容を想起させ，税が昔から存在したことや政治に必要なことを理解させる。
- ② 震災の復興の予算はどこから出るか考えさせ，税金の働きを理解する手掛かりとする。
- ③ 外部講師を招き，税の必要性について具体的に理解できるようにする。

(3) 知識の構造図（※図中の①～⑦は学習の順序を表す。）



3 学習計画（ 7時間扱い 本時5/7 ）

時間	ねらい	学習活動	評価規準【B】(評価方法)
1	○震災直後と1年後の写真などをもとに、願いを実現する政治の働きに関心をもつ。	① 震災直後としばらく後のまちや漁港の様子を比べて、気づいたことを話し合う。 ② 被災した人々の願いを実現するためにはどうしたらいいのか話し合い、学習問題をつくる。	【関】被害の大きさやまちの人々の願いについて関心をもち、願いを実現する政治の働きを意欲的に調べようとしている。
震災後、だれがどのように活動し、復興させてきているのだろうか。			
1	○震災が発生したとき、市や県、国は、どのような取り組みをしたのかを読み取る。	① 地震直後の市の取り組みについて調べる。 ② 地震直後の県の取り組みについて調べる。 ③ 地震直後の国の取り組みについて調べる。	【技】市や県、国の災害対応の取り組みについて必要な情報を集め、読み取っている。
1	○災害復旧に向けて、国は、どのような取り組みを行ったのかを調べて理解する。	① 災害復旧に向けた国の取り組みを調べる。 ② 災害からの復興に向けた国の取り組みを調べる。	【知】災害復旧の取り組みは、国の政治の働きによるものであることを理解している。
1	○災害復興に向けて、地方公共団体や国、外国や国際機関やボランティアなど様々な人々の働きを調べ、理解する。	① 災害復興に向けた市や市民の取り組みについて調べる。 ② 復興に向けたさまざまな取り組みについて調べる。	【知】災害復興への取り組みは、地方公共団体や国の政治の働きによるものであることを理解している。 【技】災害復興に向けたさまざまな支援について、必要な情報を集めて読み取っている。
1 (本時)	○人々の願いを実現するための費用は税金が使われ、国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解する。	① 外部講師の話から税金の必要性について考える。 ② DVDを見て、税金の必要性について知り、自分の考えを明確にもつ。	【知】人々の願いを実現するための費用は、住民や会社などから集められた税金が使われ、国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。
1	○調べてきたことを項目ごとに整理し、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを表現する。	① 調べてきたことを項目ごとに整理して、新聞記事を書く。 ② 学習を通して考えたことを「ことば」を活用しながら社説にまとめる。	【思】これまで調べたことを関連づけたり、総合したりして、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考え、表現している。
1	○みんなの願いを実現するには、様々な人の声を聞き、様々な立場になって願いを考え、積極的に意見を伝えることが大切であることを理解する。	① どのような公園がよいのか、自分の願いを話し合う。 ② いろいろな人の話を聞いて、ほかにどのような立場があるか、考える。 ③ 多様な意見をまとめていく方法について話し合う。	【知】みんなの願いを実現するには、様々な人の声を聞き、様々な立場になって願いを考え、積極的に意見を伝えることが大切であることを理解している。

4 本時の学習

(1) 小単元名 「震災復興の願いを實現する政治」

(2) ねらい

人々の願いを實現するための費用は税金が使われ、国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解する。

(3) 学習過程と学習の様子

段階	学習活動	学習の様子
つかむ	<p>1 既習事項を想起し、本時の学習課題を確認する。</p> <p>(1) 震災復興の予算は、どこから出るか予想し、税金の働きを理解する手がかりとする。</p> <p>(2) 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">税金の使い道を知り、必要性を考えよう。</div>	 <p>【外部講師の話を聞く】</p>
調べる	<p>2 外部講師の話から税金の必要性について考える。</p> <p>(1) 知っている税金の名前を発表する。</p> <p>(2) 税金の合計金額と、1億円のレプリカの重さを知る。</p> <p>(3) 税金の使い道を知る。</p> <p>①税金が使われているものとそれ以外のものを予想し、カードを使って分ける。</p> <p>②税金が使われているものとそれ以外のものを確認する。</p> <p>(4) 学校と税金の関係を知る。 教科書の裏を見て、小・中学校の教科書は、税金で支払われていることを知る。</p> <p>(5) 自分だったら税金を支払いたいか考える。</p> <p>3 DVDを視聴し、税金の必要性について考える。</p>  <p>【「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴する】</p>	 <p>【1億円のレプリカで、1億円の重さを知る】</p>  <p>【税金が使われているものとそれ以外のものを予想し、カードを使って貼り分ける】</p>  <p>【税金が使われているものとそれ以外のものを確認する】</p>
まとめる	<p>4 税金の必要性について考える。</p> <p>(1) 税金を支払いたいか自分の考えをもつ。</p> <p>(2) 国民の三大義務を知る。</p> <p>5 感想を発表し合う。</p> <p>(1) 感想を書き、感想を発表し合う。</p> <p>6 本時のまとめと次時の確認をする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【知】人々の願いを実現するための費用は、住民や会社などから集められた税金が使われ、国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。 (カード・発言)</p> </div>

5 まとめ

- (1) 震災の復興の予算はどこから出るか考えさせ、税金が使われているという予想をもたせたことは、既習事項を本時のねらいにつなげる上で有効であった。
- (2) 外部講師の登米法人会の方のお話やDVD、具体物（1億円のレプリカ）を活用した学習は分かりやすく、児童は関心をもちながら税金の意味と必要性を理解することができた。
- (3) 税金の必要性を理解させた上での「大人になったら税金を支払いたいか」の発問は、社会参画意識を育てる上でも有効であった。

錦織小学校6年 学級だより

平成30年12月12日

雨ニモ負ケズ

租税教室

青山税理士さんに税金の大切さを教えていただきました。



1億円のレプリカに歓声



1億円（重さは本物と同じだそうです）を全員が持ちました。



税金が何に使われているか、黒板に分けて貼りました。



みんなが使うものには税金が使われていることを確かめました。



ビデオを見て、税金がなくなるとどうなるか、学習しました。

<感想>

- 税金があると、みんなの町を豊かにできることが分かりました。みんなが使っているものは、税金で行われていることが分かりました。
- 税金がないと、ごみを回収できなくなったり、信号機も使えなくなったりすることが分かりました。だから、みんなの生活には税金がなくてはならないものなんだなあと思いました。
- ぼくは、税金がないと、どうなるのか初めて知りました。なので、これからは、税金がどんなふうに使われているか、考えながら物を買ったりしたいです。

平成30年度 租税教育実践例（第6学年）

登米市立宝江小学校

教諭 遠藤 寛樹

1 単元名 「私たちの生活と政治」

小単元名「復興支援の願いを実現する政治」

2 小単元の目標

政治は国民生活の向上と安定を図るために大切な働きがあることを理解し、わが国の政治の働きを東日本大震災の復興との関わりから考えようとする。

3 単元について

本単元は、学習指導要領の目標「(2) 日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。」の内容について学習する単元である。

4 児童の実態（男9名，女12名，計21名）

児童全員が消費税の言葉を知っていたが、他の税の種類について知っている児童は少なかった。2019年10月から消費税が8パーセントから、10パーセントに引き上げられることを知る児童も6名だった。以上の実態から、本単元を通して税金の働きや意味をきちんと理解させていきたい。

5 指導の着眼

- 佐沼税務署の方に講師としておいでいただき、税の仕組みについて小学生に分かりやすく説明をしてもらう。
- 東日本大震災の復興にも、道路や橋などの公共事業について税金が使われていることを知ってもらう。
- 社会科学習の国民の三大義務（納税）と関連させた授業を展開する。
- 税に関する絵はがきコンクールに学級全員で取り組みませ、税に関する関心を高めさせる。

6 単元の目標

地方公共団体や国の政治の働きに関心をもち、国民生活には地方公共団体や国の政治が反映していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解するとともに、我が国の政治の働きと国民生活との関わりを考えようとする。

7 学習計画

時	学習内容	指導上の留意点
1	【東日本大震災の発生】 ・東日本大震災発生後の復旧の様子を知り，学習課題をつくる。	・建物崩壊や津波の内容に配慮させる。 ・被災者の気持ちを考えさせる。
2	【東日本大震災への緊急対応】 ・東日本大震災発生直後の行政（市，県，国）の取組について話し合う。	・震災発生から行政（市，県，国）の取組で，電気，水道，食料，ガソリン等を優先事項として対応していたことに気付かせる。
3	【災害復旧に向けた国の支援】 ・災害復旧の取組は，国の政治の働きによるものであることを理解する。	・震災発生から，短い期間で予算や法律が決まったことに気付かせる。 ・行政（市，県，国）が連携して取り組んでいることに気付かせる。
4	【税金について調べる】 ・税金とは何か，なぜ納めるのか，タブレットを使って調べる。	・調べたことをワークシートにまとめ，友達と見せ合う活動を取り入れる。
5 本時	【税金の働きを調べる】 ・税金の使われ方について知る。 ・税金の大切さについて理解する。	・税金がどのような用途に使われているのか知るとともに，税金の必要性について考えさせる。
6	【復興を願う町や町民の取組】 ・復興に向けて南三陸町の取組や願いについて知る。 ・南三陸町の「きりこ」活動の取組について知る。	・南三陸町の復興に対する取組や願いを HP 等で調べさせる。総合的な学習の時間で触れた南三陸町の「きりこ」活動を想起させる。 ※「きりこ」とは，半紙で作る神棚飾りのこと。
7	【様々な支援と絆】 ・復興に向けた様々な取組の中で，多くの支援や願いがあったことを理解する。	・南三陸さんさん商店会の願いが復興に結び付いていることを紹介する。 ・被災地の公共施設（道路，信号機，橋等）の整備が進んでいることを知らせる。
8	【学習のまとめ】 ・学習したことを振り返り，税の絵はがきコンテストに応募する。	・これまで学習してきたことをワークシートに振り返らせる。 ・学級全員で税の絵はがきコンテストに応募させ，税に関する関心を高めさせる。

8 本時の学習

(1) 指導について

【本時の目標】

- ・税金の使われ方と働きについて知り，税金の大切さを理解する。

【評価基準】

- ・税金の働きについて関心をもち，意欲的に調べようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・税金の働きについて正しく理解している。(知識・理解)

(2) 学習過程

段階	○学習活動 ・児童の反応	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を知る。 税金の大切さを知ろう。	・前時で学習した税金について覚えていることを想起させる。
展開	○ゲストティーチャーから税金について学ぶことを知る。 ○知っている税金を挙げる。 ・消費税 ・住民税 ・たばこ税 ・ガソリン税 ○国税と地方税について知る。 ○1億円のレプリカを持ち，お金の重みを実感する。 ・とても重い。 ○税金の使われている施設とそうでない施設を分類する。 ○DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を観る。 ・税金がないと，消防や警察の仕事が有料になってしまう。 ・税金の大切さを知った。 ○国民の三大義務を知る。	・税務署の仕事内容について簡単に触れさせる。 ・衣食住を想起させ，自由に話し合わせる。 ・登米市内の商業施設など児童にとって身近な施設の写真を提示する。 ・視聴前に現在の消防や警察の仕事内容を想起させる。 ・視聴後，消防や警察，信号機など，税金が使われていることを理解させる。
終末	○学習の振り返りをする。	・本時の学習を振り返らせ，学習内容を深める。 評価

9 税に関する絵はがきコンテストの取組

児童が租税教室で学んだことを生かして、税に関する絵はがきコンテストに全員で応募した。作品の完成後は、友達同士で発表し合い、税金に関する興味・関心を高めることができた。

【税に関する絵はがきコンテスト応募作品（一部）】



平成30年度 租税教育実践例（第6学年社会科）

登米市立米山東小学校
教諭 千葉 美由紀

- 1 単元名 わたしたちの生活と政治
子育て支援の願いを実現する政治（税金の働き）

2 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は、地方公共団体や国の政治の働きに関心をもち、国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解するとともに、我が国の政治の働きと国民生活との関りを考えることをねらいとしている。

ここでは、子育て支援に関わる公共施設の建設を取り上げ、市民の要望を受けて公共施設の建設がどのようなプロセスで行われるのかや、その費用にはどのようなお金が使われているのかといった観点から、政治について目を向けさせていきたい。そのため、地域にある公民館やふれあいセンターなどを例に取り上げ、政治が自分たちにとって身近なものであることを理解させていきたい。また、学校で使用している教科書や机や、いすなどは税金で賄われていることにも触れ、税金への関心を高め、理解させていきたい。

これらの学習を通して、政治は自分たちの生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解させていく大切な単元であると考えている。

(2) 児童の実態（男10名 女11名 計21名）

ほとんどの児童が「税金」という言葉を知っており、税金の種類について挙げられたものでは、消費税という声が多かった。現在の消費税8%が10%に引き上げられることも知っており、税についての関心は高いと思われる。しかし、なぜ税金を納める必要があるのか、何に使われているのかについてはよく分からないようだった。そこで、自分たちの暮らしのために税金は必要だということを理解させ、税金について正しい知識を身に付けさせたい。

(3) 指導の着眼

- ゲストティーチャーとして法人会の方を迎えて、専門的な立場から税について詳しく指導していただく機会を設ける。

<関連事項>

- ※ これまでに学んだ日本の歴史の中で「租、調、庸」「年貢」などの税が古くからあったことを想起させ、税への関心をさらに高め、理解を深める。
- ※ 税金に対する関心を高めるために、「税に関する標語」や「税に関する絵はがきコンクール」等に応募する。

3 単元の目標

- 地方公共団体や国の政治の働きに関心をもち、国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反

映していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることが分かるとともに、我が国の政治の働きと国民生活との関りを考えようとする。

- 地方公共団体や国の政治の働きに関する社会的事象から学習問題を見出し、公共施設を見学したり聞き取り調査をしたりするなどの学習計画を立てて、施設の利用者や市役所の担当者などの話、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることについて思考・判断したことを適切に表現する。

4 単元の評価規準

- 社会的事象への関心・意欲・態度

- ①子育て支援事業など、地方公共団体政治の働きに関心をもち、意欲的に調べようとしている。
- ②我が国の政治の働きと国民生活との関りを考えようとしている。

- 社会的な思考・判断・表現

- ①子育て支援事業など、地方公共団体の政治の働きについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
- ②地方公共団体が市民の願いを取り入れながら国と協力していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために重要な働きをしていることについて考え、適切に表現している。

- 観察・資料活用の技能

- ①子育て支援事業など、地方公共団体の政治の働きについて、子育て支援施設や市議会などを見学したり、各種資料を活用したりして、必要な情報を集め、読み取っている。
- ②調べたことをノートや作品などにまとめている。

- 社会的事象についての知識・理解

- ①国民生活には地方公共団体や国の政治が反映していることを理解している。
- ②政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。

5 指導計画(8時間扱い 本時7時間目)

時	おもな学習活動	指導上の留意点
1	○児童センターの見学 ・写真や画像から子育て支援センターの様子を知り、幼い子供をもつ親の願いについて話し合う。	・資料を活用して、児童の興味・関心を高める。
2	○みんなの願いと児童センター ・子供支援施設について疑問に思うことについて話し合い、学習問題をつくる。	・「放課後こども教室」や地域にある公民館、ふれあいセンターなどに目を向けさせ、なぜ、このような施設などを利用する人がいるのか考えさせることから学習問題につなげる。
3	○あすばるの活動 ・写真資料やあすばるの所長の話を読み取り、どのような活動をしているのかを調べる。	・「放課後こども教室」や地域にある公民館、ふれあいセンターなどを利用したことのある児童には、経験した活動を想起させる。
4	○市役所の働き	・計画書や予算案を作るのは市役所の仕事であ

	<ul style="list-style-type: none"> 写真や画像から市役所の様子を知り、市役所の働きについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> それらを決定するのは市議会の仕事であることを理解させ、次時の学習につなげる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ○市議会の働き 資料を活用して市議会の仕事について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取り、市民、市役所、市議会、国会や関係省庁の関係を捉えさせる。
6	<ul style="list-style-type: none"> ○税金の働き① 子育て支援センターを建設、運営するための費用がどこから出ているのかを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料集などを使って調べる前に、建設費や運営費としてどのくらい金額がかかっているのか予想させ、その費用はどこから出ているのかを調べる意欲を高める。
7 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○税金の働き②<租税教室> 税金の種類や使われ方についての話を聞き、税金についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーとして法人会の方を迎えて、専門的な立場から指導していただくことで、税金が自分たちの生活を支えるために重要な役割を果たしていることに気付かせる。
8	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめる 政治の働きについて分かったことや考えたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の言葉でわかったことや考えたことを表現させる。

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

- 税金は公共のために使われていることを知り、税金は私たちの生活にとって必要なものであることを理解する。

(2) 学習の実際

段階	主な学習活動	学習の様子
導 入	1 本時の学習内容を確認し、ゲストティーチャーの紹介をする。 2 学習課題を知る。 税金の働きについて考えよう	
展 開	3 税金について考える。 ○知っている税金を挙げる。 ○税金によって教科書が無償で支給されていることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 事前に調べたことをもとに知っていることを発言する。  <ul style="list-style-type: none"> 教科書の後ろに書かれているメッセージを見て、無償で支給されているのは、これからの日本を担う

	<p>○税金がなければ、学校で勉強するのに一か月にどれくらいかかるか考える。</p> <p>○税金の使われ方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金が使われているものとそうでないものものにカードを類別する。 <p>○国の税収がいくらになるか予想する。</p> <p>○1億円が58万個分になることを計算し、1億円のレプリカを持って、その重さを体感する。</p> <p>○DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴し、税金の大切さについて考える。</p> <p>○国民の三大義務について知る。</p>	<p>自分たちへの期待がこめられたものであることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、一人当たり一か月に7万円かかることを知る。 ・写真の建物がどちらに該当するか考え、類別する。  <ul style="list-style-type: none"> ・税収が58兆円であることを知る。  <ul style="list-style-type: none"> ・税金がなくなったら、自分たちの暮らしがどうになってしまうのか考える。 ・税金を納めることは国民としての義務であることを学ぶ。
まとめ	<p>4 本時を振り返り、感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金の大切さが前よりもよく分かった。 ・税金がないと、なんでも一人で料金を払わなければならないことが分かった。 	

7 評価

- 税金は公共のために使われていることや私たちの生活にとって必要なものであることを理解できたか（発表、観察）

8 児童の感想

- ・消費税などが、国のためやみんなのために使われ、役立てられていることが分かりました。
- ・税金は、消費税だけでなく、固定資産税や法人税、所得税などもあることが分かりました。
- ・税金がなかったら充実した生活が送れないのだなあと思いました。
- ・税金について分かりやすく説明していただいたので、税に対するイメージが深まりました。

第3学年社会科学学習指導案

登米市立登米中学校 中津川 英樹

1 単元名 国民生活と福祉

2 教材について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の公民的分野における内容(2)―イに基づいており、「国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について考えさせること」を主なねらいとしている。その際、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解させるとともに、限られた財源の配分という観点から財政について考えさせることが必要である。

前単元の「市場の働きと経済」では、経済活動の意義について消費生活を中心に理解させるとともに、価格の動きに注目させて市場経済の基本的な考え方について理解させてきた。また、現代の生産のしくみのあらしや金融のはたらきを理解させるとともに、企業の役割と社会的責任について考えさせる学習を行ってきた。本単元では、前単元の学習をうけて、社会資本の充実や社会保障などの市場の働きにゆだねることが難しい諸問題について、国や地方公共団体の果たす経済的役割について考えさせる。

また、小学校では、第6学年において、「子育て支援の願いを実現する政治」について学習する際に、租税の役割について扱われる。そこで、国や地方公共団体の経済活動の財源となる租税については、意義と役割及び納税の義務について理解させ、限られた財源の配分という観点で財政を考えさせる。

特に、財政の歳入・歳出における内容を具体的に取り上げ、歳入と歳出のバランスに視点をあて、国の借金の問題や国に頼る地方公共団体の財政の問題について考えさせたい。その際、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえて考えさせることが大切である。

(2) 生徒について

生徒たちは、経済の学習を政治の学習よりも興味をもって学習している。特に、前単元での身近な経済活動にふれての学習活動では、自分の経験を積極的に発言する姿が見られた。本単元に関する租税については、夏休みには税の作文に取り組んだ。その中で、自分たちに関する教育に関わって多額の税金が使われていることを知り驚く生徒や、国が大きな借金を抱えており自分たちがその借金を返さなければならないことに不満を持つ生徒などもいた。

社会科としての学力面では、知識・理解力はあるが、資料の読み取りであったり、資料から推測・考察したりすることを苦手とする。また、学習技能面では、資料を読み取り、自分が考えたことがらを、根拠を示して説明することを特に苦手とする。さらに、他の生徒の発表から考えを深めるといった学習活動を不得手とし、根拠もなく他の生徒の真似に走ってしまう生徒もいる。

したがって、学習に関わる身近な事象を取り上げるとともに、資料から推測・考察する活動を大切に、他の生徒の発表から生徒たちの思考が深まるような学習活動を展開していきたい。

(3) 指導観

本単元は、国民生活の向上と福祉の向上を図る上で市場の働きにゆだねることが難しい諸問題について、身近な事象を取り上げ、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割を考えさせ、さらに考えを深めるために、統計資料を活用し、根拠を明確に示した説明ができるようにさせたい。学習の展開としては、問題解決的な学習を展開し、予想を立てることを大切にして、調べる学習を通して知識の交流が行われ、さらに多

面的・多角的な考察へと深まるものとしたい。

特に本時では、国の財政の問題点と地方公共団体の財政の問題点を資料から考察し、問題解決に向けての生徒それぞれの考え方を大切にしたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 目標

- ・国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割を理解する。
- ・社会資本の整備、社会保障の充実、などの財政に関する課題について複数の統計資料を関連づけて読み取らせたりグループで話し合わせたりすることで、自分の考えをまとめさせ発表させる。

(2) 評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

社会保障のあり方など財政上の課題について関心を持ち、意欲的に話し合いに参加している。

【社会的な思考・判断・表現】

国や地方公共団体が果たしている経済的な役割や財政について、多面的・多角的に考察し、国や地方公共団体の経済活動のあり方について、さまざまな観点や立場から公正に判断できている。

【資料活用の技能】

国や地方公共団体の経済活動に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりすることができている。

【知識・理解】

社会資本の整備、公害の防止などの環境保全や社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割および国民の納税の義務について理解し、その知識を身につけることができている。

4 単元の指導計画・評価計画（4時間扱い）

略

5 本時の学習

(1) 指導の構想

① 導入

前時の学習した税の種類について復習した上で、生徒に身近な税（消費税）を取り上げ、消費税が値上がりしたらどう思うか話し合わせ、財政の収入財源に視点を絞らせる。そして、今年の消費税増税から、なぜ国民が苦しむようなことを行うのかを考えさせ、財政には何か問題があるのではないかとすることに気付かせる。そして、学習課題を設定する。

② 展開

前半では、まず学習課題に対して予想・発表させ、学級全体の仮説をたて、課題解決への意思の強化を行う。その上で、国の歳出と歳入の割合のグラフと国債残高と国債依存度のグラフから、国の財政の問題点を読み取らせたい。単に「国が借金をしている」ということだけでなく、収入と支出のバランスと国債残高が今から30～40年前から積もり積もってきたことをおさえさせたい。現代の社会状況や変化にもふれて考えさせたい。

後半では、国の財政に目を向けてきたが、地方公共団体（登米市）の財政に視点を移し、歳入と歳出のバランスはどうか、公債に頼っているのかを予想させたい。うえて、「登米市の歳入と歳出」のグラフから問題点を

読み取らせる。その際に、国への依存財源である国庫支出金、地方交付税交付金について理解させ、国の財政との関わりが強いことを読み取らせたい。そのことから地方自治がどのような問題点を抱えているかを考えさせたい。さらには、これからの地方公共団体の財政のあり方について多面的・多角的に考えさせ、発表させたい。発表内容として、「歳入を増やすことについて」、「歳出を見直すことについて」、そして、「国の財政と関連づけて地方公共団体の財源の安定について」ができるようにさせる。

③ 終末

財政の問題点についてわかったことを自分の言葉でまとめさせ、さらに財政の問題解決に向けての最終的な自己判断をまとめさせたい。

(2) 本時のねらい

- ・国と地方公共団体の財政問題について、解決策を考えることができる。【思考・判断・表現】
- ・公債発行の問題点について、説明することができる。【技能】

(3) 評価規準

略

(4) 本時の展開

段階	学習内容	指導上の留意点 * 配慮事項	資料 ◎評価(方法)
導入 10分	1. 前時の税の種類について復習する。 【学習課題】	* 国税収入ベスト3 (消費税、所得税、法人税)を確認。 ○消費税が値上がりしたら、どう思いますか。 ・たくさんお金を払わなければならないから、いやだ。(挙手) * 最近の増税案を紹介する。 ○ どうして国民が苦しむ消費税の増税を行うのか ・国のお金が足りないから。・歳出が増えているから。・借金がある。・少子高齢化が進んでいる。 【学習課題】 ※ 財政に何か問題があることに気付かせる。	* デジタル教科書
		財政にはどんな問題があるのだろう。	

<p>展開</p>	<p>2. 学習課題に対して予想する。</p>	<p>○どんな問題があるだろう。予想してみよう。ワークシートに記入し、発表する。学級全体の仮説を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 税収入だけでは、国のお金が足りないだろう。 ・ 国の借金がある。 	<p>資料1 国の歳入と歳出の内訳のグラフ * デジタル教科書</p>
<p>35 分</p>	<p>3. 国の財政について調べる。</p> <p>4. 地方公共団体の財政について調べる。</p> <p>5. 国に依存する地方財政の問題について考える。</p>	<p>○資料1から国の財政にはどんな問題がありますか ※ 税収入だけでは不足しており、国民からの借金（公債金）で補っていることに注目させる。さらに、歳出の公債金と歳出の国債費を比較させ、返済し切れていないことに気付かせる。</p> <p>○資料2も関連づけて考えると、どんな問題がありますか。 ※ 国債依存度の変化と国債残高の変化を読み取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国債への依存度が近年増加してきている。 ・ 国債残高は年々増加してきている。 <p>※ ノートに記入させる。発表し合い、他人の発表から、自分の読み取りに付け加える。</p> <p>○地方公共団体（登米市）の財政のバランスはどのようになっているのだろう ※ 市税、市債だけでなく、国庫支出金、地方交付税交付金に着目させ、理解させる。</p> <p>※ 地方公共団体の財政が、国の財政に依存していることに気付かせる。</p> <p>○地方公共団体の財政が、国に依存しているとどんな問題があるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方自治が国の財政に影響される。 ・ 地方公共団体独自の活動ができない。 	<p>資料2 国債の発行残高と国の歳入に占める国債の依存度のグラフ * デジタル教科書</p> <p>◎ 公債発行の問題点について、説明することができる。（ノート）</p> <p>資料3 登米市の歳入と歳出のグラフ</p>
<p>終 結 5</p>	<p>6. 国や地方公共団体の財政の問題点から今後の財政のあり方を考える。</p>	<p>○国と地方公共団体の財政の問題点を自分の言葉でまとめ、今後の財政のあり方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費税などの増税を再度行う。 ・ 地方公共団体の財源を安定させる。 ・ 歳出を見直す。 <p>※ ノートに記入させる。発表し合う。他人の発表（ノート）から、自分の考えに付け加える。</p>	<p>◎ 国と地方公共団体の財政の問題について、解決策を考えることができる。（ノート）</p>

1 単元名 政府の役割と国民の福祉

2 単元観

2019年10月1日から消費税及び地方消費税の税率が8%から10%に引き上げられると同時に、消費税の軽減税率制度が実施される予定である。消費税は、生徒にとって最も身近な税金であり、その引き上げは直接生活に影響が出てくる。消費税の導入の目的や、引き上げなければならない理由などを、現在の社会情勢を考え、既習事項や今後の学習内容との関連を図り、身近な問題として取り上げていくことができる単元である。生徒にとっては消費税以外の税金については、その種類や内容、使い道等についてはなじみが薄く、よく分からない現状である。消費税を考えることで、そこから税金の目的や必要性を認識し、身近な存在として捉えることができる。税金がなければ我々の生活は成り立たないことにも気づかせたい。そこで自分たちの生活を考えさせ、どんなところで税金が必要かを考えさせることから学習を始めさせた。また、東日本大震災を経験している本県の中学生にとって、被災地復興のための財源として、復興特別所得税が加算されていることにも気付かせ、我々の知らないところで安心した生活を送られるために様々な税があることも考えさせたい。

また、所得の違う中で課税の方法を考えさせることで、公平な課税の方法と逆進性に気付かせ、所得税についての累進課税の制度があり、様々な課税の仕方があり、複数の税金を組み合わせることで全体での公平性を確保しているということをつかえさせたい。更に、税額を決めることや、政府が何にお金を使うかや、財政の課題を考えさせることで政治に関わる大切さを考えさせたい。次代を担う児童・生徒が、民主主義の根幹である租税の意義や役割を正しく理解し、社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持ち、さらには納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てていくことが必要と考えられる。既習事項である少子高齢化、国民の義務、地方財政などとの関連を図り、次時以降の社会保障や少子高齢化と財政の学習につなげ、少子高齢化社会を背負って立つ今の中学生に、日本の現在の課題を考えさせ、今後の学習につなげていきたいと考える。

3 指導計画（5時間扱い）

時間	題材名
第1時	私たちの生活と財政（税金の仕組み、さまざまな税金）
第2時（本時）	私たちの生活と財政（税金の公平性）
第3時	政府の役割と財政の課題
第4時	社会保障の仕組み
第5時	少子高齢化と財政

4 本時の指導

(1) 題材名 私たちの生活と財政（2時間扱いの2時間目）

(2) ねらい

- ・租税の公正な負担について、政府や納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、公正に判断している。（社会的な思考・判断・表現）
- ・累進課税の方法を理解し、計算によって税額を求めることができる。（資料活用の技能）

(3) 指導にあたって

所得の違う中で課税の方法を考えさせることで、公平な課税の方法とその課題について考えさせ、所得税についての累進課税の制度があることを理解させ、様々な課税の仕方があり、複数の税金をうまく組み合わせることによって全体での公平性を確保しているということを考えさせたい。また、グループで税額を決める話し合いが、実際には自分たちの税金などを政治で話し合っていて決めていることだということを体感させたい。

(4) 評価

- ・租税の公正な負担について、政府や納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、公正に判断できたか。(社会的な思考・判断・表現)
- ・累進課税の方法を理解し、計算によって税額を求めることができたか。(資料活用の技能)

(5) 学習過程

段階	学習活動	形態	指導上の留意点	評価
導入 5分	1, 消費税の値上げについて考える	一斉	○賛成, 反対の立場を確認し, ヨーロッパの国の状況を伝え, 値上げの理由について考える。 ○軽減税率の制度について説明する。	
展開 40分	2, 本時の学習課題をつかむ 公平な税負担とは何か 3. グループでの話し合いを行う 1班5人のメンバーを課税所得100万円が1人, 300万円が3人, 1,000万円が1人の3パターンに分けて合計350万円の税を集める場合にどのように集めるかを班毎に話し合う。 4. 発表する 各班で決めた税の内容の発表する。	グループ	○低所得者の税負担について考えさせ, 既習事項である効率と公正, 決まりの評価を考え, 立場を変えても受け入れられるものになっているかを考慮した決定内容になっているかを確認する。	・公平な税負担について考えることができる【思】
	5, 累進課税について実際に税額を計算する。	一斉	○各自計算させてから, 課税所得を説明し, 税率の変わる部分について計算の仕方を確認する。	・累進課税の計算ができる【技】
まとめ 5分	6, 税の種類と税制について確認する。	一斉	○同額の税金を課す公平な税負担と, 税の逆進性について説明し, 複数の税金を組み合わせることによって全体の公平性を確保していることを確認する。	

○租税についてのアンケート結果

①消費税の10%の値上げに賛成か

	賛成	反対
授業前	12人	65人
授業後	46人	31人

②税が大切なものだったか。

	とても大切	大切	あまり大切でない	大切でない
授業前	21人	46人	9人	0
授業後	49人	28人	0	0

③税について関心を持つことができたか

	とてもできた	できた	あまりできない	できない
授業前	4人	37人	33人	3人
授業後	27人	49人	1人	0

④選挙が大切なものだったか。

	とても大切	大切	あまり大切でない	大切でない
授業前	24人	48人	5人	0
授業後	44人	31人	2人	0

○租税の授業を終えての感想より

- ・納税をして、間接的ではあるが国に貢献していきたいと思う。
- ・急速に増え続ける高齢者により、日本の社会保障はどんどん拡大していることを知り、国の財政破綻が起これないようにしっかり国民として税を納めていきたいと思う。
- ・一人一人の意識が必要で、そのためには教育が大切だと思った。
- ・受身にならずに、税がどのように使われているかを自ら調べる必要がある。
- ・税がどのように考えて成り立っているのかを知ることができた。
- ・税は国民を苦しめるものだと思っていたが、授業の後、税は国や国民のために使われているということが分かり、税は大切だと思うようになりました。(多数)
- ・消費税の値上げに反対だったけど、国民や国のためということが分かり賛成する。
- ・消費税が上がると負担が増えるというマイナス面ばかり考えていたが、国の経済をまわしたり、公共事業のためになったりするなどプラスの面があることが分かってよかった。
- ・日本は公債金の額が多いため消費税を10%に引き上げることは賛成であるし、それによって社会保障が充実するならば、仕方のない出費だと思っていた。世論で増税反対の声が上がっているのを見て、共感する面もあったが、授業を受けて、国が累進課税などの工夫をこらして財政をまかなおうと努力していることが分かった。国民として国の社会保障と税の釣り合いを頭に入れながら、もっと意見を言うべきだと思った。頭ごなしに政治批判をする大人が多いので、もっと政治や財政についての教育を充実させるべきだと思った。
- ・選挙も大切なものだと改めて知れてよかった。
- ・選挙は自分たちの意見が反映される大切なものだとすることが分かった。
- ・選挙で一人でも多くの意見を取り入れることが大切だと思った。

平成30年度 租税教育推進協力者

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
佐 沼 小 学 校	6学年	鈴 木 一 郎 教諭
登 米 小 学 校	6学年	後 藤 步 教諭
錦 織 小 学 校	6学年	岩 渕 安 弘 教諭
宝 江 小 学 校	6学年	遠 藤 寛 樹 教諭
豊 里 小 学 校	6学年	皆 川 玲 奈 教諭
米 山 東 小 学 校	6学年	千 葉 美 由 紀 教諭
登 米 中 学 校	社会科	中 津 川 英 樹 教諭
米 山 中 学 校	社会科	清 水 裕 治 教諭

平成 30年度 登米市租税教育推進協議会構成員名簿

(敬 称 略)

役職名	所 属	氏 名
会長	登米市教育委員会 教育長	高 橋 富 男
幹事	宮城県東部教育事務所登米地域事務所 所長	中 里 寛
幹事	登米市小学校長会 会長	高 橋 正 則
幹事	宮城県東部県税事務所登米地域事務所 所長	今 泉 勝
幹事	登米市総務部次長兼税務課長	高 橋 洋
幹事	佐 沼 税 務 署 署 長	佐々木 讓
	県北高等学校長会 登米地区代表	茂 木 好 光
	登米市中学校長会 会長	小野寺 文晃
	登米市教育研究所 所長	萩 田 隆 児
	登米市教育委員会 生涯学習課 課長	日 野 幸 紀
	登米市納税貯蓄組合連合会 会長	及 川 俊
	公益社団法人登米法人会 会長	渡 邊 光 悦
	東北税理士会宮城県北支部佐沼部会 部会長	及 川 富 男

歴代租税教育推進協力者

昭和61年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名	
南方町	西郷小	2 学年	鈴木陽子	教諭
登米町	登米小	2 学年	長谷信一	教諭
米山町	善王寺小	3 学年	熊谷仁一	教諭
迫町	北方小	4 学年	豊原仁	教諭
南方町	南方小	6 学年	富士原啓子	教諭
迫町	佐沼小	6 学年	畠山信弘	教諭
石越町	石越中	社会科	菊田郁朗	教諭
東和町	東和中	社会科	小野寺達郎	教諭

昭和62年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名	
豊里町	豊里小	3 学年	今野文彦	教諭
米山町	中津山小	4 学年	伊東博敏	教諭
南方町	西郷小	4 学年	菅原満夫	教諭
登米町	登米小	5 学年	菅原純一	教諭
南方町	南方小	5 学年	成澤淑子	教諭
迫町	北方小	6 学年	中津川良子	教諭
登米町	登米中	社会科	鈴木幹雄	教諭
豊里町	豊里中	社会科	沼田芳孝	教諭

昭和63年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名	
迫町	北方小	1 学年	岩渕安弘	教諭
米山町	桜岡小	2 学年	海野達兄	教諭
登米町	登米小	3 学年	千葉直子	教諭
迫町	佐沼小	4 学年	飯塚豊	教諭
東和町	嵯峨立小	5 学年	佐藤教子	教諭
東和町	米谷小	6 学年	及川茂法	教諭
米山町	米山中	社会科	及川喬	教諭
南方町	南方中	社会科	佐藤徳明	教諭

平成元年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名	
中田町	石森小	2 学年	畠山蓉子	教諭
南方町	南方小	3 学年	小野寺蔦	教諭
石越町	石越小	3 学年	石山順	教諭
迫町	新田第一小	5 学年	石合克行	教諭
米山町	米岡小	5 学年	日野峻	教諭
東和町	米谷小	6 学年	桜井浩志	教諭
迫町	佐沼中	社会科	菊池信夫	教諭
中田町	中田中	社会科	吉野幸信	教諭

歴代租税教育推進協力者

平成2年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	森小	5 学年	菅原一子 教諭
中田町	石森小	6 学年	高橋節子 教諭
南方町	南方小	5 学年	小野寺 薫 教諭
石越町	石越小	1 学年	石山 順 教諭
迫町	北方小	4 学年	石合 克行 教諭
米山町	米岡小	5 学年	日野 峻 教諭
迫町	新田中	社会科	千葉 忠徳 教諭
石越町	石越中	社会科	二階堂 和夫 教諭

平成3年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	森小	3 学年	菅原一子 教諭
東和町	錦織小	4 学年	及川 晃史 教諭
東和町	米川小	5 学年	小野寺 夕へ子 教諭
中田町	石森小	5 学年	高橋節子 教諭
中田町	浅水小	5 学年	末永 澄子 教諭
中田町	加賀野小	6 学年	佐藤 美恵 教諭
登米町	登米中	社会科	矢内 昭裕 教諭
東和町	東和中	社会科	小野寺 達郎 教諭

平成4年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	佐沼小	3 学年	大場 しの 教諭
迫町	新田第二小	4 学年	高橋 眞理 教諭
南方町	西郷小	6 学年	齋藤 裕之 教諭
中田町	浅水小	3 学年	末永 澄子 教諭
豊里町	豊里小	5 学年	熊坂 昭子 教諭
東和町	錦織小	6 学年	及川 晃史 教諭
豊里町	豊里中	社会科	畠山 俊彦 教諭
米山町	米山中	社会科	小野 敦史 教諭

平成5年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	新田第一小	5 学年	菊池 敏一 教諭
迫町	新田第二小	4 学年	高橋 眞理 教諭
豊里町	豊里小	6 学年	熊谷 昭子 教諭
中田町	宝江小	6 学年	須藤 勝子 教諭
米山町	善王寺小	4 学年	太田 弥 教諭
南方町	東郷小	5 学年	千葉 一彦 教諭
中田町	中田中	社会科	畠山 俊彦 教諭
南方町	南方中	社会科	佐々木 由美 教諭

歴代租税教育推進協力者

平成6年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
南方町	東郷小	6 学年	千葉一彦 教諭
石越町	石越小	6 学年	高橋節子 教諭
中田町	桜場小	6 学年	菅原啓士 教諭
中田町	新井田小	6 学年	森田久 教諭
東和町	鱒淵小	5 学年	佐藤孝文 教諭
迫町	北方小	6 学年	高橋純 教諭
石越町	石越中	社会科	矢内昭裕 教諭
迫町	新田中	社会科	中津川英樹 教諭

平成7年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	佐沼小	6 学年	庄子裕 教諭
中田町	宝江小	6 学年	鈴木久美 教諭
東和町	嵯峨立小	6 学年	須藤勝子 教諭
登米町	登米小	5 学年	沼倉弘子 教諭
米山町	中津山小	5 学年	門田洋之 教諭
豊里町	豊里小	5 学年	長南忠男 教諭
米山町	米山中	社会科	小野寺文晃 教諭
中田町	中田中	社会科	佐々木正生 教諭

平成8年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	新田第一小	6 学年	清和幸彦 教諭
登米町	登米小	6 学年	沼倉弘子 教諭
東和町	米谷小	6 学年	渋谷雄二郎 教諭
中田町	石森小	6 学年	高橋晋 教諭
豊里町	豊里小	5 学年	鈴木有 教諭
米山町	中津山小	6 学年	門田洋之 教諭
石越町	石越小	T T	佐藤浩子 教諭
南方町	西郷小	5 学年	小野寺夕へ子 教諭
迫町	佐沼中	社会科	大場正浩 教諭
豊里町	豊里中	社会科	渡邊淳一 教諭

平成9年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	新田第一小	4 学年	清和幸彦 教諭
登米町	登米小	6 学年	寺川雅洋 教諭
東和町	錦織小	6 学年	石川克行 教諭
中田町	上沼中央小	6 学年	皆川寛 教諭
豊里町	豊里小	5 学年	長南忠男 教諭
米山町	中津山小	6 学年	後藤俊朗 教諭
石越町	石越小	6 学年	高橋敏子 教諭
南方町	西郷小	5 学年	佐藤和枝 教諭
東和町	東和中	社会科	佐々木正生 教諭
南方町	南方中	社会科	藤浦悟 教諭

歴代租税教育推進協力者

平成10年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	新田第二小	6 学年	菅原博 教諭
登米町	登米小	6 学年	佐々木勝江 教諭
東和町	嵯峨立小	6 学年	高橋秀憲 教諭
中田町	上沼小	5 学年	鈴木典幸 教諭
豊里町	豊里小	5 学年	水沼勝 教諭
米山町	桜岡小	6 学年	菅原善彦 教諭
石越町	石越小	5 学年	熱海宏明 教諭
南方町	南方小	6 学年	佐藤秀明 教諭
登米町	講師	社会科	三浦秀治 教諭
石越町	石越中	社会科	山家英樹 教諭

平成11年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	新田第二小	3 学年	菅原博 教諭
登米町	登米小	6 学年	萩田志保子 教諭
東和町	米谷小	5 学年	鈴木真理 教諭
中田町	浅水小	5 学年	佐藤教子 教諭
豊里町	豊里小	5 学年	兵藤清美 教諭
米山町	中津山小	6 学年	佐藤勉 教諭
石越町	石越小	5 学年	桜井ひろみ 教諭
南方町	東郷小	5 学年	熊谷俊子 教諭
迫町	新田中	社会科	中津川英樹 教諭
米山町	米山中	社会科	石田康之 教諭

平成12年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	北方小	T T	岩渕安弘 教諭
登米町	登米小	6 学年	熱海宏明 教諭
東和町	錦織小	5 学年	菅原善彦 教諭
中田町	桜場小	5 学年	佐藤美紀子 教諭
豊里町	豊里小	5 学年	後藤智子 教諭
米山町	米岡小	5 学年	秀由佳 教諭
石越町	石越小	5 学年	野里恵二 教諭
南方町	西郷小	5 学年	笹原明美 教諭
迫町	佐沼中	社会科	大場正浩 教諭
中田町	中田中	社会科	箱石雄悟 教諭

平成13年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	森小	4 学年	金野ゆかり 教諭
登米町	登米小	6 学年	飯塚市代 教諭
東和町	鱒淵小	6 学年	中井充夫 教諭
中田町	石森小	5 学年	岩渕公一 教諭
豊里町	豊里小	5 学年	矢野美智代 教諭
米山町	善王寺小	5 学年	遠藤聡子 教諭
石越町	石越小	5 学年	佐藤眞紀 教諭
南方町	南方小	6 学年	石井大志 教諭
東和町	東和中	社会科	高橋和芳 教諭
豊里町	豊里中	社会科	矢内昭裕 教諭

歴代租税教育推進協力者

平成14年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	森小	6 学年	千葉 ゆかり 教諭
登米町	登米小	6 学年	後藤 俊朗 教諭
東和町	米川小	5 学年	佐藤 建雄 教諭
中田町	加賀野小	5 学年	渡邊 宏紀 教諭
豊里町	豊里小	5 学年	伊藤 悦子 教諭
米山町	桜岡小	6 学年	蓬田 昭彦 教諭
石越町	石越小	5 学年	庄司 紀子 教諭
南方町	東郷小	5 学年	千葉 裕子 教諭
南方町	講師	社会科	小野寺 彰哉 教諭
登米町	登米中	社会科	藤浦 悟 教諭

平成15年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	新田第二小	5 学年	門田 りえ 教諭
登米町	登米小	5 学年	三浦 教順 教諭
東和町	嵯峨立小	5 学年	加瀬谷 武敏 教諭
中田町	新井田小	6 学年	高橋 広満 教諭
豊里町	豊里小	5 学年	千葉 浩幸 教諭
米山町	中津山小	5 学年	村上 喜久美 教諭
石越町	石越小	5 学年	山口 沙織 教諭
南方町	西郷小	5 学年	遠藤 恵 教諭
迫町	新田中	社会科	山家 英樹 教諭
石越町	石越中	社会科	中津川 英樹 教諭

平成16年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	北方小	6 学年	佐藤 浩人 教諭
登米町	登米小	5 学年	佐藤 裕 教諭
東和町	米谷小	6 学年	佐藤 康 教諭
中田町	宝江小	6 学年	佐藤 祥子 教諭
豊里町	豊里小	5 学年	佐藤 裕志 教諭
米山町	米岡小	6 学年	阿部 孝紀 教諭
石越町	石越小	5 学年	高橋 美至 教諭
南方町	南方小	5 学年	佐々木 和枝 教諭
米山町	米山中	社会科	箱石 雄悟 教諭
中田町	中田中	社会科	吉田 淳子 教諭

平成17年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
佐沼小	佐沼小	6 学年	千葉 克憲 教諭
錦織小	錦織小	5 学年	佐藤 理英 教諭
石森小	石森小	5 学年	鹿野 俊洋 教諭
加賀野小	加賀野小	6 学年	鈴木 周 教諭
中津山小	中津山小	5 学年	伊藤 伸子 教諭
桜岡小	桜岡小	6 学年	鈴木 明美 教諭
東郷小	東郷小	5 学年	千葉 裕子 教諭
柳津小	柳津小	6 学年	加藤 浩二 教諭
佐沼中	佐沼中	社会科	伊藤 志穂 教諭
豊里中	豊里中	社会科	寺内 篤 教諭

歴代租税教育推進協力者

平成18年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名	
新田第一小	6 学年	秋 葉 徹	教諭
嵯峨立小	5・6 学年	渡 邊 宏 紀	教諭
上 沼 小	6 学年	熊 谷 真 理 子	教諭
浅水小	6 学年	鈴 木 勝 彦	教諭
豊里小	6 学年	寺 内 篤	教諭
善王寺小	5・6 学年	菅 原 満 夫	教諭
西郷小	5 学年	千 葉 洋 子	教諭
横山小	5 学年	佐 藤 秀 俊	教諭
東 和 中	社会科	高 橋 和 芳	教諭
南 方 中	社会科	菅 原 栄 治	教諭

平成19年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名	
新田第二小	6 学年	永 倉 郁 裕	教諭
米川小	6 学年	萩 原 達 也	教諭
鱒淵小	3・4 学年	長 南 忠 男	教諭
宝江小	6 学年	佐 藤 朱 美	教諭
中津山小	6 学年	米 島 久 智	教諭
米岡小	6 学年	三 浦 弘 義	教諭
石越小	6 学年	高 橋 聡 子	教諭
南 方 小	6 学年	鈴 木 久 美	教諭
登米中	社会科	藤 浦 悟	教諭
津山 中	社会科	飯 川 弘 芳	教諭

平成20年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名	
北 方 小	6 学年	菅 原 善 彦	教諭
森 小	特別支援	芳 賀 明 洋	教諭
桜岡小	6 学年	千 葉 高	教諭
善王寺小	6 学年	菅 原 満 夫	教諭
中津山小	6 学年	村 上 喜 久 美	教諭
米谷小	5 学年	佐 々 木 里 香	教諭
石森小	5 学年	澁 谷 智 樹	教諭
加賀野小	6 学年	大 友 厚 子	教諭
新 田 中	社会科	箱 石 雄 悟	教諭
石越 中	社会科	田 口 勇 介	教諭

平成21年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名	
佐 沼 小	6 学年	千 葉 恵 理 子	教諭
森 小	5 学年	鈴 木 淳	教諭
錦織小	6 学年	芳 賀 明 洋	教諭
浅水小	6 学年	小 野 寺 博 美	教諭
米岡小	6 学年	佐 藤 英 明	教諭
南 方 小	6 学年	高 橋 敏 子	教諭
柳津小	6 学年	菅 原 満 夫	教諭
佐 沼 中	社会科	小 山 紘 明	教諭
米 山 中	社会科	守 康 幸	教諭

歴代租税教育推進協力者

平成22年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
北 方 小	6 学 年	皆 川 寛 教諭
米 谷 小	社会科主任	小 畠 宏 夫 教諭
石 森 小	5 学 年	澁 谷 智 樹 教諭
上 沼 小	6 学 年	佐 藤 美 紀 子 教諭
中 津 山 小	6 学 年	伊 藤 秀 樹 教諭
石 越 小	6 学 年	幡 江 真 穂 教諭
東 郷 小	6 学 年	鈴 木 有 教諭
横 山 小	6 学 年	及 川 信 太 郎 教諭
豊 里 中	社会科	井 上 鮎 香 教諭
南 方 中	社会科	富 安 隆 文 教諭

平成23年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
新 田 小	6 学 年	箱 石 雄 悟 教諭
登 米 小	6 学 年	伊 藤 敬 教諭
米 川 小	6 学 年	渡 邊 宏 紀 教諭
宝 江 小	6 学 年	進 藤 俊 博 教諭
豊 里 小	6 学 年	小 野 寺 美 和 教諭
米 山 東 小	6 学 年	五 十 嵐 裕 子 教諭
西 郷 小	6 学 年	長 南 忠 男 教諭
柳 津 小	5 学 年	菅 原 満 夫 教諭
中 田 中	社会科	中 津 川 英 樹 教諭
津 山 中	社会科	飯 川 弘 芳 教諭

平成24年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
佐 沼 小	6 学 年	関 根 大 悟 教諭
森 小	6 学 年	後 藤 智 子 教諭
錦 織 小	2 学 年	芳 賀 明 洋 教諭
加 賀 野 小	6 学 年	加 藤 め ぐ み 教諭
浅 水 小	6 学 年	山 田 紀 子 教諭
米 岡 小	6 学 年	佐 藤 正 彦 教諭
南 方 小	4 学 年	大 槻 征 玄 教諭
東 郷 小	6 学 年	後 藤 大 典 教諭
東 和 中	社会科	藤 浦 悟 教諭
石 越 中	社会科	伊 藤 圭 講師

平成25年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
北 方 小	6 学 年	佐 藤 純 教諭
米 谷 小	6 学 年	阿 部 孝 紀 教諭
石 森 小	5 学 年	千 葉 裕 子 教諭
上 沼 小	6 学 年	佐 藤 勉 教諭
中 津 山 小	5 学 年	菅 原 真 理 教諭
石 越 小	6 学 年	門 田 洋 之 教諭
西 郷 小	6 学 年	佐 藤 眞 紀 教諭
横 山 小	教務主任	鈴 木 明 美 教諭
登 米 中	社会科	遠 藤 孝 講師
米 山 中	社会科	清 水 裕 治 教諭

歴代租税教育推進協力者

平成26年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
新 田 小	6 学 年	鈴 木 健 太 郎 教諭
登 米 小	6 学 年	伊 藤 敬 教諭
米 川 小	6 学 年	高 橋 寛 教諭
宝 江 小	6 学 年	鈴 木 真 亀 子 教諭
豊 里 小	6 学 年	千 葉 恵 理 子 教諭
米 山 東 小	6 学 年	五 十 嵐 裕 子 教諭
南 方 小	社 会 科	後 藤 善 史 教頭
柳 津 小	教 務 主 任	菅 原 満 夫 教諭
新 田 中	社 会 科	箱 石 雄 悟 教諭
豊 里 中	社 会 科	中 津 川 英 樹 教諭

平成27年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
佐 沼 小	6 学 年	佐 々 木 理 教諭
錦 織 小	教 務 主 任	岩 淵 安 弘 教諭
加 賀 野 小	6 学 年	小 幡 秀 明 教諭
米 岡 小	6 学 年	佐 藤 智 之 教諭
石 越 小	6 学 年	門 田 洋 之 教諭
東 郷 小	6 学 年	金 野 ゆ か り 教諭
佐 沼 中	社 会 科	及 川 正 生 教諭
中 田 中	社 会 科	白 石 善 郎 教諭

平成28年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
北 方 小	6 学 年	佐 藤 純 教諭
米 川 小	6 学 年	佐 藤 理 英 教諭
上 沼 小	6 学 年	佐 藤 秀 明 教諭
中 津 山 小	6 学 年	鈴 木 周 一 教諭
南 方 小	6 学 年	佐 藤 ゆ か り 教諭
横 山 小	教 務 主 任	浅 野 克 樹 教諭
東 和 中	社 会 科	林 佳 舗 講 師
南 方 中	社 会 科	鈴 木 一 郎 教諭

平成29年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
新 田 小	6 学 年	高 橋 慎 教諭
米 谷 小	6 学 年	阿 部 亘 平 教諭
石 森 小	6 学 年	高 橋 寛 教諭
浅 水 小	6 学 年	佐 藤 眞 紀 教諭
西 郷 小	3 学 年	佐 々 木 芽 衣 子 教諭
柳 津 小	5 学 年	佐 藤 育 子 教諭
石 越 中	教 務 主 任	箱 石 雄 悟 教諭
津 山 中	主 幹 教 諭	白 石 善 郎 教諭

平成 31 年 3 月

発行者 登米市租税教育推進協議会

租税教育用教材・資料・DVD 等に関するご意見、ご要望を下記までお寄せください。

佐沼税務署 総務課（事務局） (0220) 22-2501